

あ・と・が・き

今年の冬は全国的に記録的な寒波・大雪に見舞われましたが、日高地方も例外ではなく、軽種馬育成調教場も例年になく大雪で、安全な馬道確保のために早朝除雪・不凍剤散布・排水作業等悪戦苦闘の日々が続きました。そのような状況の中、若馬達は屋内の調教施設で順調に調教・トレーニングをこなしており、競馬場での活躍が楽しみです。

当センターの研修生は、寒中の厳しい訓練の合間をぬって、忠類村でスキー授業を実施、心身ともにリフレッシュ。現在、4月10日のJRA育成馬展示会での騎乗供覧及び4月14日の修了式の実技査閲に向けて、一年間の研修の総仕上げに余念のない日々を送っております。(Y.H)

「たづな」欄は生産地からです。現在、停滞する競馬産業界ですが、各分野で活性化を目指して改革・改善が行われています。互いに連携をとり、協力し合ってこの状況を切り抜きましょう。

昨年のJRA「ブリーズアップセール」の盛況の大きな要因は「情報提供」であると言われています。「調査研究」の欄に紹介しました今回のテーマはその情報の一部となったもので地道な調査で得られた結果です。さらに、より精度の高い情報を還元できる調査研究を期待し、セリ市場が活気付くことを期待しましょう。

予防接種をなぜ二度も三度もしなければならないのか、そしてなぜ時期が決まっているのか。「やさしい育成技術」欄においてその理由を解説してもらいました。より効果的に病気から守り、育成期から一貫して同じワクチンプログラムを実施し、継続すれば生産地から競馬場(中央・地方)まで移動や交流が円滑にできるようにする目的であることが理解いただけたと思います。(H.H)